

第 30 回 公立大学法人神戸市外国語大学評価委員会 議事要旨

- 1 日 時 令和 4 年 6 月 8 日（水） 11：00～11：45
- 2 場 所 三宮研修センター605 会議室
- 3 出席者
 - 委 員 三成美保委員長、伊藤恭子委員、岡田豊基委員、吉井昌彦委員、
松井謙二委員、巳波弘佳委員
 - 事務局（企画調整局） 辻局長、岡山副局長、平川課長ほか
 - 神戸市外国語大学 武田理事長、田中副理事長、椋野理事、田村理事、光永理事、
北見理事ほか
 - 神戸市立工業高等専門学校 末永校長、道平校長補佐ほか

4 議 事

議題 1 第 3 期中期目標の変更について

（委員）修正後の中期目標を受けて、前回評価委員会の意見が反映されてよいと思う。今回の目標の修正に関するのではなく全体的なことになるが、「効率化」というとコストカットの意味にとられることが多いかもしれない。神戸市へのリクエストになるが、必要などころには新たな投資を行ってほしい。中期計画策定に向けても必要なことだろう。先日の高専見学を通じ、高専が数々の教育実績をあげている一方で、施設の老朽化が進んでいることを実感した。「効率化」は必要だが、さらなる成果を出すためにも投資が必要だ。

（事務局）新たな投資内容については現在検討中である。運営の効率化については、設置者として法人に求めるべき内容であるため記載している。新たな投資と効率化と両方が必要であり、分けて検討していく。

（事務局）生産性を上げるという意味も含めての「効率化」である。

（委員）目標に反映されなくても、神戸市側の見解が評価委員会の議事録に残ることが重要だ。

（委員）大学・高専にとっての学校評価が 2028 年（令和 10 年）にあると思う。その 3～4 年前には評価の対象となる骨格を作らねばならない。今回の中期目標で重要なのは、前文にある（1）～（3）の基本的目標で、この内容はおそらく外大にとっても高専にとっても初めての項目かと思う。今後、この中期目標を土台に各学校の基本的な教育目標である三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッ

ション・ポリシー)に反映させ、より良い教育目標にしてもらいたい。

(大学) 外大は来年度に認証評価を控えているため、これはその次の話になると思う。次期教育目標に反映させていくことを考えていきたい。

(委員) 今回の高専・外大という文理のコラボレーションは初めての取組であり、世の中の期待も大きい。ほかの教育機関においても興味深い事例なので、ベストプラクティスを積極的に発信してもらいたい。長期的にみれば、教育部分においても今までにない高い能力をもつ人材を生み出す可能性も考えられると思う。そのような仕組みづくりも期待したい。

(事務局) 様々な大学連携の強化、コラボレーションを図るなかで、プラットフォームの構築も進めているところ。まずはその中で情報の共有をおこなうことを考えている。それだけでなく、ベストプラクティスは単なる情報発信にとどまらず、全国に向けてもアピールをしていきたい。

(委員) まさしくわくわく感が出てきたと思う。資料2について、2点指摘したい。

まず7ページの「第4 大学ブランドの確立と情報発信に関する事項」のなかに模擬国連等、学生たちの取組を積極的に発信したいということが書かれている。昨日、神戸新聞のHPを見ていたら、模擬国連で優秀賞をとったことが取り上げられており、着々と成果をあげている様子が伺える。さらに外大で11月に平和をテーマにした模擬国連が開催されると聞いている。この模擬国連は世界から注目されることになると思う。そこで指摘したいのが、せっかくそのような成果を持っているのであれば、文科省が使う言葉「学習成果(ラーニングアウトカム)」をどこかに入れ込むことができると考えている。例えば、第4の1に「レベルの高さを学習成果(ラーニングアウトカム)として対外的に積極的に発信する。」とするなど。こうすれば、文科省の方向性を把握しているというアピールができるのではないかと感じた。「コンプライアンス」の意味を調べてみると、法令や社会的規範を守ること、のようだ。「法令や社会的規範等を遵守すること」というように、「コンプライアンス」という言葉は除いても良いかもしれない。最後に参考事例として、奈良高専を紹介したい。この4月に、奈良女子大と奈良教育大が同一法人化した。そこにオブザーバーとして奈良高専も参加するような取組がある。調べてみると、令和4年4月、奈良女子大に工学部が開設された。今回の同一法人化と形は異なるが、高専が大学に絡んでいくモデルケースとして注視していく価値があると思う。奈良県には他に奈良先端科学技術大学があり、そこともコラボをして、最終的には「奈良カレッジズ」を作りたいという構想があるようだ。

先ほど辻局長の話にもあった、大学のプラットフォームの形成にも繋がる話かと思うが、プラットフォームについては文部科学省の期待も大きいようなので、ぜひ進めてもらいたいと思う。

(委員) まず「学習成果」について文科省の言葉を入れ込むという提案はいかがか。

(事務局) 対応したい。

(委員) 「コンプライアンス」について言葉が二重になっているのでは、という指摘についてはいかがか。

(事務局) 持ち帰って検討したい。

(委員) 奈良高専と奈良女子大のコラボレーションに関する事例の紹介があった。ぜひ注視しながら良い点を取り入れてほしい。もし現時点でお持ちの情報や方向性があれば教えてほしい。

(事務局) 先日「けいはんな学研都市（正式名称：関西文化学術研究都市）」を視察し、地域振興が進んでいることを確認した。そのような先端的な事例を含めて、自治体、産業界、大学がいかに連携していくのか、という観点から、今回の高専と外大のシナジー効果を生み出すために情報収集を進めていきたい。

(委員) 修正後の中期目標は非常に良くまとまっている。各委員の意見が取り入れられ、わくわく感が増した。この調子で進めてもらいたい。

(委員) 個別での対応等、それぞれの意見に対して丁寧に反映してもらい、大変良かった。各種調整に感謝したい。コンプライアンスの点は、事務局に検討してもらおうとして、その他に意見等があれば、委員長が引き取り、事務局と最終調整を行うという形でのろしいか。

(一同) 了承。

(委員) それでは本日の議題である中期目標については以上とする。今後の中期計画の策定も控えているが、お気づきの点があれば自由に意見をいただきたい。

(委員) これからより具体的なことを考えていく必要があり、私も積極的に関わって考えて

いたいと思う。外大と高専という一見分野がかけ離れている教育機関のシナジー効果を生む取組は、なかなか意見が出しづらいと思う。だからこそ、両者の教職員が集い、意見を出す場を設けることが必要になってくる。これは単なるアイデアだが、先日の高専視察を経て、高専と外大の間に山を隔てて隣り合っていることを知った。そこに道を通せば両者が行き来しやすくなる。その上で、単に道を通すというだけでなく、そこに自動運転のEVを走らせて実証実験を行い、外大生も関わるイベントを行えば両者の交流も進むだろう。そのような計画を立て、手持ちの予算だけでなく、国や県の予算を積極的に取り、企業からも協力してもらうのはどうか。このようなわくわくする計画を、お互いの顔を突き合わせて検討できる場を設けてほしい。

(委員) 自動運転といえば非常にホットなテーマで、非常に良いご提案だと思う。今回のコラボレーションは、性格の違う学校同士である。奈良女子大と奈良教育大の場合は、全学共通の教養科目を共同で履修できる仕組みを作った。距離が近いので学生が行き来できる。またオンラインを活用して移動しなくても授業が受けられるようになっている。単位履修の在り方を変えていくのも、法人統合ならではの見せ方として面白いのではないか。先ほど話の出た、企業からの協力は他大学にも事例がある。ネーミングライツで企業から寄付金をもらい、施設の改修やプログラムに名づけをしていく。特に地元企業との連携をアピールする。そこに卒業生を送り込んでゆき、更なる連携を図っていく。市民に対して共感を得られる様々な連携の見せ方や、大学の在り方をアピールしていくと良いのではないか。

(委員) 私は兵庫県のある会議の委員でもある。前回開かれた第一回の会議で、地場産業の活性化がかなり重要視されていた。兵庫県の地場産業は産学連携を進められる大きなチャンスでもあると思う。特に地場産業は海外とのつながりも今後は重要になってくる。そこで外大の国際性・高専の技術力を発揮できる。兵庫県の産業と外大、高専のコラボレーションは、兵庫県の方向性そして同一法人化の方向性とマッチすると考えている。

(委員) 兵庫県の動きも重要な視点だと思う。先ほど「学習成果」という文科省の言葉を取り入れる提案があったが、その関連でいくと、科学技術・イノベーションのコンセプトをどのように計画に盛り込んでいくか。国連のSDGsは2030年で終わるがそれを継承する目標は出てくると思う。そのような方向性に貢献する方法を積極的に考えてほしい。国の政策、また、国の政策を超えた見せ方を意識すると良いのではないだろうか。

(大学) 本日は積極的、前向きな意見を多くいただいたと感じている。いただいた意見は中期計画にも反映していければと考えている。効率化とともに自助努力に取り組む一方

で、神戸市には取組への支援をお願いしたいと考えている。何とぞよろしくお願いしたい。貴重なご意見に感謝したい。

(委員) 大学の発展は自治体の発展であり、両輪となると思う。ぜひご支援をいただきたい。

さいごに

(事務局) 本日の意見を踏まえて、変更案をパブリックコメントにかける。次回評価委員会にて、結果を報告する予定。